

リコーDNA標準プレート発売記念Webinar “そのPCR,大丈夫?” Part2. PCR法の精度管理

PCR法を用いた陽性・陰性判定（定性的測定法）は、食品分野、医療分野などで広く用いられています。こうした試験では常に偽陰性や偽陽性のリスクが伴います。
本ウェビナーでは、定性的PCR測定における誤判定のリスクを低減させる精度管理手法について考えます。

日時 2020年12月21日(月) 15:00-16:30
Microsoft Teamsによるライブ配信（無料）

講演1 15:00-15:30
信頼のおける遺伝子検査を目指して
講師：橋田 和美 先生
農研機構・食品研究部門

講演2 15:30-16:00
リアルタイムRT-PCR法を用いた新興呼吸器感染症ウイルス核酸検出の検査精度と地方衛生研究所との連携について
講師：影山 努 先生
国立感染研・インフルエンザウイルス研究センター

16:00-16:30 リコー製品紹介、質疑応答

主催 株式会社リコー / 株式会社ファスマック

RICOH
imagine. change.

FASMAC

当日Webinar視聴には事前登録が必要となります。
以下のファスマックWebサイトにアクセスお願い致します。

[https://www.bio.fasmac.co.jp/Seminar/ja-JP/Seminar/
ApplicationAddNew.mvc?SeminerId=RW02](https://www.bio.fasmac.co.jp/Seminar/ja-JP/Seminar/ApplicationAddNew.mvc?SeminerId=RW02)

※右のQRコードからもアクセス可能です

登録期限：2020年12月21日13時



講演要旨・講師プロフィール



【ご略歴】 橋田 和美 先生

東北大学農学部食糧化学科卒業、カリフォルニア大学デーヴィス校食品科学部修了、博士（農学）。農林水産省入省、食品総合研究所（現・国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究部門）に配属、この間タフツ大学USDAヒト栄養学加齢研究センター客員研究員、現在に至る。内閣府食品安全委員会専門委員（遺伝子組換え食品専門調査会）、ISO/TC34/SC16分子生物指標規格専門分科会委員ISO/TC34/SC16/WG9 種子及び穀物のサブサンプリング コンビナー等。

【講演要旨】

信頼のおける分析を実施するために、標準物質の活用は欠かせない。PCR分析においては、分析機器の高感度化等により低濃度領域の分析が可能になってきているものの、低濃度領域の精度管理に利用可能な標準物質の整備は十分ではなかった。そこで、われわれは、数コピーから数十コピーレベルの、極低濃度領域における分析の精度管理に資する“コピー数規定核酸標準物質”の開発を行い、演者は8月に開催された本ウェビナーの第一弾においてその紹介を行った。第二弾である本講演においては、PCR検査を実施する上で留意すべき点を示すとともに、PCR分析の精度管理における“コピー数規定核酸標準物質”の利用の可能性について紹介する。



【ご略歴】 影山 努 先生

大阪大学医学部医学博士。臨床検査会社の研究開発部を経て2005年に国立感染症研究所に入所、2009年より現職。専門はウイルス学。2009年に始まった新型インフルエンザパンデミック対応では検査系を確立して、検疫所、地方衛生研究所での全国規模の検査体制を構築。2020年に出現した新型コロナウイルスの検査対応にも従事。リアルタイムRT-PCR法を利用したインフルエンザウイルス核酸検査の外部精度評価（検疫所、地方衛生研究所向け）の実施、鳥・ブタインフルエンザウイルスを含めた新興呼吸器感染症ウイルスによるパンデミック対策に向けた診断機能向上のための研究などにも取り組んでいる。

【講演要旨】

2009年の新型インフルエンザパンデミック以降、感染症の診断検査に核酸検出検査の必要性が叫ばれてきたが、2020年1月に新型コロナウイルスが出現するまで、核酸検出法を用いた検査体制の整備・拡充はほとんど行われてこなかった。核酸検出法に精通していれば、PCR法による核酸検出検査は比較的誰でも簡単に行う事は可能である。しかしながら検査精度が担保された核酸検出検査を実施するには、高価な測定機器や実験室を用意するだけで行えるべくもなく、非常に高度な核酸検査のスキル、知識、経験などを持つ熟練した人が必要で、誰もが気軽にできる検査とはならない。本セミナーではリアルタイムRT-PCR法を用いた精度の高い核酸検出検査を実施するための留意点などについてお話ししたいと思います。